

地域発見推進委員会

委員長 近藤大輔

事業報告

本年度、地域発見推進委員会～チームスピリット～は、逗子葉山らしさを追求することを使命とし、キラリと輝く地域を目指して、まちづくり事業を行ってまいりました。逗子葉山らしさである「豊かな自然」と「歴史・文化遺産」をフィールドに地域で活動する方々と連携した事業を展開しました。

5月第一例会では、逗子葉山の親子とともに神奈川県最大の国指定史跡長柄・桜山古墳群を探検いたしました。古墳を守りその存在価値を発信している「長柄・桜山古墳をまもる会」の方々にクイズ形式でわかりやすく古墳の説明をしていただき、子どもたちとともに興味・関心を深め文化遺産の意義を再認識いたしました。「人と自然と地域」との間に豊かな交流を創り出し、メンバーが「地域で必要とされる人材」に近づけたことと確信しています。

7月第一例会では、手づくりエコいかだ11艇54名（小学生以上・保護者）に参加頂き、特別参加のリバークリーン艇をあわせると、60名の参加者により田越川をくだりました。前々日からの台風の影響が心配されましたが、当日は晴天に恵まれるとともに、川の水位も安定するなかでの事業実施となりました。当日は予想より早く参加者が集まり、事業に対する参加者の意気込みが感じられるものでした。スタート前のいかだPRタイムでは、各艇の特徴や環境に配慮したこだわり等を話してもらいました。子どもたちにとどまらず父母のエネルギッシュな姿には圧倒されるものがありました。同じ名前のかだがあったり、偶然にも友達に参加しているチームもあり、互いのかだを見比べては話し合う参加者の姿が見られるなど様々な交流がありました。下田橋のスタート地点は潮の干満により水位が変化する事は事前に調査済みであったものの、当日の満潮が05:15だったこともあり、スタート時には水位が下がり、いかだを押す姿も見られましたが、200mも河口に下ると水位は安定し、参加者は自分たちの作ったいかだにのりこみ川を下り始めました。約一時間弱の川下りを参加者にはあじわっていただきました。途中で壊れていくいかだや、最下位のかだに30分以上もの差をつけてゴールするいかだもあり、参加いかだには、それぞれの川下りもようがありました。なかでも時間が大幅に遅れ最終ゴールをするいかだに対し、参加者全員が拍手でゴールを迎えるシーンは忘れられないものとなりました。参加者には、地域の豊かな自然やいつもと違うまちの姿に「何かを」感じていただけたことと思います。また、委員会目的である「人と自然と地域」との間に豊かな交流を創り出すとともに、メンバーが「地域で必要とされる人材」に近づけたことと確信をしています。反省すべき事の多い例会であったものの、子どもたちが自然の中から、そして共同作業の中から「何かを」感じ取ってくれたと確信しています。逗子葉山地域において知られざる地域資源はまだ多く、今後も地域資源に対する認識を深める事業を継続するとともに、一層地域の方々と交流を深められる事業を続けることが、ひいては青年会議所の発展につながるものと考えます。

担当する最終例会、10月第一例会では、講師（三浦半島活断層調査会 顧問 蟹江康光）をお招きし、逗子葉山にはないと言われていた活断層についてスライドでの解説、講演会場である港湾管理事務所から披露山の断層地形を遠望しながらその特性について説明を受けました。講演後、会場より徒歩5分にある県と市の指定文化財の「鑑摺の不整合」を見学し、断層のメカニズムなど様々なレクチャーを受けました。関東での震災の歴史、貴重な写真、新聞記事、活断層調査会の最新の調査結果をもとに地震と活断層の因果関係や大地震時に地域がどのように変貌するのか認識を深めることができました。スライド

を用いた講演は専門知識がない者にもわかりやすく、大変興味深いもので、逗子葉山らしさである「豊かな自然」の中に隠された「自然の脅威」に対する備えは日ごろからの関心の高さがいかに重要であるかを実感することができました。「防災ではなく減災につとめるというのが正しい」と、講師の言葉にもあるように、災害は完全に防ぐということはできず、被害を最小限にすることを具体的に実施していくことが必要であり、今日明日にでも大震災が訪れて不思議ではない状況に私たちは生活しており地震とともに生活しているといっても過言でないことを改めて考えさせられました。

今年度の事業を通じて、委員会名にもあるように、わたしたちの暮す逗子葉山地域のすばらしさを再発見し、LOM 内に留まらず多くの人との交流を持って、そのすばらしさを地域のリーダーとして発信していくことを積極的に推し進めていく、まさに第一歩を踏み出したところでもあります。今後、次世代に誇れるまちづくりを進めるわれわれ青年会議所メンバーが、地域にとってなくてはならない存在であり、必要とされる存在であるためには、この機に終わることなく、すべての事業を通して、ともに地域愛を育んでいくことを忘れてはなりません。

【例会報告】

5月第1例会 テーマ 「みんなで古墳を探検しよう！」

講師 長柄・桜山古墳をまもる会
日時 5月26日(土) 9:45~12:15
場所 長柄・桜山古墳群及び逗子野外活動センター
出席者数
メンバー 13名
仮入会者 1名
長柄・桜山古墳をまもる会 4名
一般 21名
出席率 59.9%

7月第1例会 テーマ 「手づくりエコいかだレース」

協力団体 環境ボランティア HUG、NPO 海岸クラブ
逗子マリン連盟、逗子海岸組合、ずし環境ウィークス
日時 7月16日(月) 7:00~11:30
場所 逗子市田越川及びずし海岸
出席者数
メンバー 13名
環境ボランティア HUG 3名
NPO 海岸クラブ 3名
逗子マリン連盟 1名
逗子海岸組合 1名
ずし環境ウィークス 2名
一般 子ども 47名 大人 13名
出席率 59.9%

10月第1例会	テーマ 「逗子葉山の活断層を知る」
講師	三浦半島活断層調査会 顧問 蟹江康光氏
日時	11月25日(日) 9:00~14:00
場所	葉山港管理事務所及び鑑摺不整合
出席者数	メンバー 18名 一般 18名
出席率	85.7%

【事業反省】

1. 5月・7月例会の委員会メンバーの出席が悪かった。
1. 設営や当日の人員配置の段取りが徹底されていなかった。
1. 一般参加者への案内が不十分であった。
1. けがの危険をとまなう事業の場合の救急体制が万全でなかった。
1. 講義にとどまらず、屋外で体験型の事業を行えたことはよかった。

【申し送り事項】

1. 限られた時間の中で電子メール等を使いメンバー間の連絡は取るように心がけたが、詳細な打ち合わせは難しいので例会直前には全員出席の委員会開催と当日の行動予定を徹底して把握すること。
1. 他委員会・他団体への例会での業務分担と打ち合わせを早めに行うこと。
1. 主な案内方法は、行政の掲示板であったので、過去に例会に参加してくださった団体・一般の方に直接連絡をとること。今後は、参加者リストを総務で保管し引き継いでいくことも必要（個人情報保護のためにも保管場所を決めること）
1. 最寄の医療機関の受付時間と担当医の科を把握すること。特に近年は一般参加型の例会は土日に開催しているので、平日と受付時間・受付方法が異なる場合があるので要注意。逗子葉山で行う一次救急では不測の事態に対応できないため、近隣の二次救急の受け入れ態勢の確認をしておくべきである。
1. 逗子市の行う「市民活動ボランティア保険」では、保険適用範囲が限られるため内容にあわせた保険をかけること。
1. 地域の知られざる事実や、魅力ある地域資源は列挙にいとまがありません。今後も積極的に地域の魅力を発見する事業を展開するよう申し送ります。

【委員会開催日】

1/24,2/22,3/7,3/28,5/11,5/19,5/26,6/1,6/12,6/26,
7/10,7/13,7/30,8/3,8/20,9/3,9/18,10/2,10/9,10/24,11/1,11/16,11/21,11/29
合計 24回